

施政方針から

～ウィズコロナの難局を打破し、ポストコロナを見据えて～ 市民の命と暮らしを守り、 将来への持続可能なまちづくり

2月18日、令和3年第1回津市議会定例会の開催に当たり、前葉泰幸市長が施政方針を述べました。今号では、その主な内容を掲載します。なお、施政方針の全文については、津市ホームページでご覧いただけます。

津市 施政方針 

世の中の大きな変わり目において

昨年は、**新型コロナウイルス感染症**が社会を大きく変えた1年でありました。この感染症のような大きな力によって日常が変えられてしまうその時、私たち行政というのは、前例に捉われることなく、何をすべきかをしっかりと考え抜き、そのことを迅速にかたちにしてお届けしていくことが求められているのではないかと思います。



施政方針を述べる前葉泰幸市長

市民の皆さまの不安や制約が多い中で、まずは市民の命を守り、そして、地域経済を支え続けることを根幹に据え、市役所の持つ人材や財源などの経営資源を全て集中投入し、その時々状況にしっかりとお応えするために、**今必要とされること、今やるべきこと**を選択し、**迅速かつ的確に実行**することを基本としてきています。今後も感染状況に応じて、行政に求められることは日々変化していくことから、その時点の状況を厳しく受け止め、市民に優しいコロナ対策を穏やかに講じてまいります。

市民の命と暮らしを守り、将来への 持続可能なまちづくりに向けて

最優先のコロナ対策

令和2年度のコロナ対策については、計11回の補正予算を組んで、逐次必要な施策を重ねてまいりました。令和3年度もこれまで同様、コロナ対策に最優先で取り組むため、まずは、当初予算に**総額約17億3,000万円**を計上しました。今の市民生活や地域経済の状況に**緊急に対応しなければならない対策、通年で取り組んでいこうとする対策**の両方を盛り込みました。

なお、1月28日に成立した国の第3次補正予算には、追加で新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が盛り込まれており、令和3年度において活用できることとなりました。同交付金については、交付金を活用した**市独自のコロナ対策**の事業展開全体の中で、今後必要となる追加対策への活用を考えてまいります。

新型コロナウイルスワクチン接種事業

公共施設や商業施設数カ所を拠点とした集団接種会場の確保や高齢者施設での入所者への接種など、国から届いたワクチンを全ての市民の皆さまに**混乱なく、迅速かつ着実に**接種していただける体制を整えるため、医療機関との委託契約や接種場所の確保のための費用など、**約12億2,000万円**の経費を計上しました。